

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 氏名 高橋 佳子
指導教授氏名	井原 一成
論文審査担当者	主 査 石橋 恭之 副 査 津田 英一 副 査 伊東 健
<p>(論文題目)</p> <p>一般住民における体脂肪蓄積タイプと心血管疾患関連因子（血圧、糖代謝、脂質代謝）との関係</p> <p>(Association of body fat accumulation with risk factors for cardiovascular diseases (blood pressure, glycometabolism, and lipid metabolism) in a general population)</p>	
<p>(論文審査の要旨) 本研究では、地域一般住民を対象に、インピーダンス法で測定した内臓脂肪面積を中心に、各肥満指標と心血管疾患関連因子との関係を検討している。対象は、2015年度岩木健康増進プロジェクトに参加した20歳以上の一般住民1,113名の内、悪性腫瘍等の既往症がある者や調査項目欠損値のある者を除いた653名（男254名、女399名）である。これらを男女別に40歳未満、40歳以上60歳未満、60歳以上の3つに年齢区分した。調査項目は、肥満指標、血圧系指標、血液検査、アンケート調査である。各群の特徴を一元配置分散分析、肥満指標と心血管疾患関連因子との関連には重回帰分析を行った。男性において心血管疾患関連因子と最も多く関連したのは、内臓脂肪面積であった。特に、内臓脂肪面積は、全年齢区分で、TG、LDLコレステロール、インスリン等との相関がみられた。女性では各肥満指標と心血管疾患関連因子との相関関係の出現数は同程度であり、内臓脂肪面積は、全年齢区分で、拡張期血圧、TG、HDLコレステロール、LDLコレステロール等と相関がみられた。肥満指標とアディポサイトカインとの関連をみると、女性では全年齢区分で全ての肥満指標と3種のアディポサイトカインとに相関がみられたが、男性は、レプチンのみ全年齢区分で相関がみられた。内臓脂肪面積は、男女とも心血管疾患リスクへの脂肪の影響を最もよく反映していると考えられ、心血管疾患の早期発見・予防のためには内臓脂肪面積の測定が推奨される。女性では内臓脂肪面積だけでなく他の肥満指標も心血管疾患関連因子と関連がみられたが、これは女性では腹部以外へも多くの脂肪が分布していることが影響しているものと推察された。</p> <p>本研究は、地域一般住民を対象として肥満指標と心血管疾患関連因子との関係性を明らかにした意義ある研究である。さらに、本論文は下記の学術雑誌にすでに受理されている。以上から、本研究は学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌 2019年1月4日受理 (29巻掲載予定)